

熱川温泉病院

板垣 幸子（事務部 / 病棟クラーク）

功 績 20年にわたりその豊富な経験と高い責任感で、自部署（7・8階）だけでなく、他病棟クラークと連携し、医療消耗品の削減や各種業務改善に大きく貢献してきた。また、今回の電子カルテシステムの更新においては、クラーク業務全体を取り纏め、システム変更直後でも業務に支障が生じないように対応してくれた功績。

推薦者氏名 芳賀 聖也（事務部長）

推薦理由 20年にわたり、患者さん、ご家族、職員から厚い信頼を得ながら、病院運営を支え続けてきた板垣は、「人間の尊厳は皆、平等である」「愛情を持って親身な対応」という健育会の理念を、日々の実践によって体現している職員です。その姿勢は周囲の模範であり、今後も健育会を支えるかけがえのない人材であることから、理事長賞に最もふさわしい職員として、ここに謹んで推薦いたします。

内 容

7・8階病棟クラークの板垣は、今年永年勤続20年表彰を授与され、長年にわたり病院運営を支えてきました。その豊富な経験と高い責任感で、常に病院全体を見据え、業務改善や多職種連携に大きく貢献しています。

6月の電子カルテシステムのメーカー変更に伴う作業では、病棟クラーク業務の中心となり、各病棟を取りまとめながら新しい運用の定着に尽力し、運用変更に伴う混乱を最小限に抑え、円滑な業務開始を実現しました。また、病棟における医療消耗品削減に向けて、各病棟クラークと協議を重ね、適正在庫の見直しと定数削減を部門目標として推進。コスト意識の醸成にも貢献しています。さらに、常勤医師の異動に伴う運用変更や定期予防接種業務における医事課との役割分担の調整、各部門目標の策定などにおいても、期限を遵守しながら迅速かつ的確に対応しています。部門内のさまざまな課題に対して率先して行動し、クラーク職員をまとめ上げる調整力とリーダーシップは、組織にとって欠かせない存在となっています。

しかし、板垣が優れているのは、業務遂行能力だけではありません。健育会が大切に、「人間の尊厳は皆、平等である」「愛情を持って親身な対応」を、日々実践している点です。

長期入院されていて先日お亡くなりになられたAさんと、そのご家族、特に奥様への対応では、面会時には杖をついて歩かれる奥様に自然に歩調を合わせ、さりげなく寄り添われていました。また、Aさんが会話が困難になってからも、奥様からのお電話の際は受話器をAさんの耳元へ運び、奥様の声を届けるとともに、普段のご様子やわずかな反応を丁寧にお伝えし続けました。奥様は彼女を深く信頼され、安心してAさんを任せられる存在として頼りにされていました。その姿は、業務の範囲を超えて人と人との心をつなぎ健育会の理念を実践するものであり、多くの職員の模範となっています。20年にわたり積み重ねてきた誠実な勤務姿勢、組織への貢献、そして患者さん・ご家族に寄り添う温かな人間性は、理事長賞にふさわしいものと確信し、ここに心より推薦いたします。